
星くず

NAMINE

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星くず

【Nコード】

N9411H

【作者名】

NAMINE

【あらすじ】

わたしはまるで星くず。だけど、わたしを変えたのはあなたです。

ブログ：星くず（前書き）

初うpなので、くず作品です。

プロローグ：星くず

夜空を見上げれば、月と星

なかでも輝く星の周りには、星くずが薄く光っている。

そう。わたしはあの『星くず』

第1夜：あの子とわたし

「おはよう、マイ」

朝学校にいけば、たくさんの人に声をかけられる。

わたし 園崎 舞は学校では有名な方だろう。

「おはよう、サツキ」

サツキは高校に入ってから友達で、2年間同じクラス。

わたしは明るめに染めた髪を揺らしながら、サツキの方をむいた。

「サツキちゃん、おっはよお！」

サツキは金髪で目立つせいか、注目を浴びやすい。そして、変なウワサが多いことも事実だ。

正直って 性格が良いとはお世辞にも言えないくらい。 むしろ、『悪い』といったほうが合ってるんじゃないかな…。

わたしは別に サツキが好きだというわけではない。できれば、関わりたくない。でも、自分のために一緒にいるんだ。

これは、女の子だったらみんなが経験すること。

あなたの周りにもいない？

そういう人が。

今日も 同じ朝。

繰り返しの毎日が今日も始まる――。

キンコンコーン：

「せえっふツツ！」

いつもギリギリで教室に飛び込むわたしとサツキに、怒ったりする

人は誰もいない。見つめるだけ。 みんなサツキが怖のだろう。

HRが終わると、チャラチャラした女子と一部の男子が集ってくるのが習慣。いつも中心にいるのはわたしとサツキ。周りから見たら、どんなカンジなんだろう。

「なあ、今日カラオケいこうぜ！」

「いいねえ♪いこいこ！」

誘うのはいつも男子。そして、それに乗る女子達…。カラオケなんて、ほとんど毎日通ってるから飽きた。けど、断るなんてできない。だってわたしはサツキのおかげで輝いてるんだもん。離れるのが怖い。

離れたらわたしなんて、ただの女子。 そんなの嫌だ。

みんなの輪のなかにいなきゃ…。

「マイも行くよね？」

「あ…、あったり前じゃあん！」

サツキの問いかけに、わたしはテンションアゲメに答えた。顔ひきつつってたかな。

自分を押し殺すのなんて、もうなれちゃった。

『自分らしさ』は、どっかに置き忘れたもん…。

サツキとわたしの関係は、今おもえば作り上げたウソの絆で、できていたんだね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9411h/>

星くず

2010年10月12日07時53分発行